

〈研究課題名〉	D-0902 (E-092)	地域住民による生態資源の持続的利用を通じた湿地林保全手法に関する研究		
<p>〈研究概要〉</p> <p>タイを中心とする東南アジアにおけるマングローブや河畔湿地林など地域住民にとって身近な湿地林を対象に、森林の広がりや漁業生産を含めた機能定量化と住民による利用と保全実態の解明によって、湿地林の持続的利用を通じた保全手法を明らかにし、政策化に資する問題と解決策を提案する。</p> <p>(1) 身近な湿地林における生態資源の過去50年間の変遷 タイの湿地林を主対象にして、約50年間の面積と分布パターンから減少要因を把握する。湿地林が生み出す生態資源の質と生産力、水界への栄養供給機能を求め、地域における50年間の資源実態の移り変わりを明らかにするとともに、住民が利用可能な資源量を示す。</p> <p>(2) 湿地林が支える漁業資源と住民による利用実態の解明 タイの湿地を中心として、湿地林が支える漁業資源の生産力と質および住民により利用される資源の季節性や林との関係、住民による漁業資源保全などの実態を明らかにし、地域における資源量と住民が持続的に利用可能な量を示す。</p> <p>(3) 住民による湿地林生態資源利用と管理・保全実態の解明 社会経済条件変化下における地域住民による湿地林からの生態資源利用の実態を把握する。さらに住民自身が資源の持続的利用のため森林を管理・保全し修復する事例から、湿地林が与えるインセンティブと住民の持つ資源維持の知恵を明らかにし、普遍性を持たせた提示を行う。</p> <p>(4) 住民による森林の持続的利用・保全の適正支援政策の必要条件解明 様々な条件下での住民参加型森林管理の先行事例を分析して問題点を探り解決策の提案を行う。地域住民による持続的生態資源利用を通じた湿地林の管理・保全策の立案・実施において森林行政機関が果たすべき役割を明らかにする。</p>				
〈研究代表者〉	藤間 剛		独立行政法人森林総合研究所 国際研究推進室長（47才）	
No.	サブテーマ名		氏名	所属機関名・部局・役職名
(1)	身近な湿地林における生態資源の過去50年間の変遷		佐野 真 <input type="radio"/> 田淵 隆一 林 典子 米田 令仁	独立行政法人森林総合研究所資源解析研究室長 独立行政法人国際農林水産業研究センター林業領域長 独立行政法人森林総合研究所 多摩森林科学園主任研究員 独立行政法人森林総合研究所 国際森林情報推進室主任研究員
(2)	湿地林が支える漁業資源と住民による利用実態の解明		<input type="radio"/> 藤岡 義三	独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所 生産システム部チーム長
(3)	住民による湿地林生態資源利用と管理・保全実態の解明		<input type="radio"/> 竹田 晋也	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授
(4)	住民による森林の持続的利用・保全の適正支援政策の必要条件解明		<input checked="" type="radio"/> 藤間 剛	独立行政法人森林総合研究所 国際研究推進室長